

ビデオの有効活用について(99)

湯沢署 総務課 佐藤二男

1 秋田営林局管内では、昭和63年度から全署にビデオカメラが備え付けられ、その活用、特に安全管理上の有効な手だてとしての活用が期待されているところであり、ます。(①タイトル)

しかし、操作技術の習得の機会が少ないことや、ビデオの有効性がまだよく認識されていないことなどからか、その機能を十分に発揮させている状態にないところもあるようです。

湯沢署におけるこれまでのビデオカメラの活用状況は、やはりあまり芳しいものではなく、安全指導や森林教室、その他で時々活用する程度でした。

それではなぜこういう状況になっているのか考えてみると、

- (1) 現地に持って行くことが煩わしい。
- (2) TVも持って行くとなれば荷物になる。
- (3) 撮影したものを見せたいと思っても現地に電源がない。
- (4) 見せるための適当な場所がない。
- (5) 操作方法に自信がない。

など、主に使用する側で努力を要する理由があげられました。

そして、撮る側の態勢が前述のような状態であったため、見る側も興味を持って見たいという意識が盛り上がり、このことも活用状況が低迷する要因となっていたようです。

そこで平成2年度にこれまでの活用状況をなんとか改善することができないか試行錯誤しながら取り組んでみたところ、「内容が良く理解できた」「別のテープも見せてもらいたい」「もっと活用すべきだ」等の意見が出され、初期の目的は一応達成できたと思います。(スライド① 安全推進会議)

さらに、署で行う安全関係の会議等で使用するなど活用の範囲が広がり、今後、より多目的に活用できるという足がかりを得たものと考えています。

このようなことから、まだまだ不足な部分が多いのですが、各署のビデオ活用の一助になればと思い発表するものです。

2 取り組みの結果得た留意事項

ビデオカメラの操作方法や映像の作り方などの基本的な部分については、取扱い説明書や市販のテキストを見ていただくことにして、ここでは私達が現場でビデオを活用する場合のことについて、取り組んでみたことを一部実例を示しながら申し上げてみたいと思います。

(1) どのような目的で何を撮るのかねらいを定めておく

例えば作業現場に行き作業の様子を撮るとしても、撮る目的によりねらいかたも違ってくるはずです。

私達がビデオを使う場合、放送局のように台本を作ってまで撮影するということは殆どないと思いますが、漫然と撮ったものは視聴者に対して訴えるものが薄れてしまいます。(② イラスト TV 人物一人)

(2) 誰に見せるのか定して撮影する

後で見せる対象が誰であるかにより撮る内容に違いが出てくると思います。

例えば写された目的や場所が分かる人のみが対象である場合は、場所の説明も加えたほうが理解を深めることにつながると思います。

(③ イラスト TV 人物二人)

(3) できれば撮影後編集する → 目的に合った見易い画面を作る

ビデオカメラで撮ったままの映像は相当気を使って撮っても見にくい部分があったりします。また、間に別のカットを入れた方が理解を深めることができる場合もあります。編集されたテープは見違える程グレードアップされた映像になります。また、ビデオカメラについている各種機能を活用することにより、より一層効果的な画面が出来上がります。(④ 編集)

(4) 編集しない場合は撮る順序を決めてから写す

編集しない場合はできるだけ無駄な部分を作らないように心掛け、初めから終わりまで一つの流れになるような映像を作るようにすると視聴者の理解を深めることができます。(⑤ 流れ)

(5) できるだけ早く見せる → 手ごたえが良い

特に現場での安全指導や緊急訓練の場面を撮った場合などは、その後で行われる座談会の席で見せようと、見る側もつい先程の出来事がすぐ見られることにより関心の度合いが違ってきます。

ここで困ることは電源のない場所でTVを使用する場合ですが、湯沢署では350W程の小型発電機を利用して見たところ、良い結果が生まれ効果的でした。

移動できる電源があれば機動性が大幅にアップし、活用の範囲が広がると思います。自動車のバッテリーで稼動するTVもありますが、画面の大きいものがないので視聴者が多いときは難点があります。(⑥ 小型発電機の使用例)

(6) 音(物音, 声, 音楽)を意識して入れる

作業者の音や声, ナレーションなどを意識して入れるようにすると, 視聴者に訴えかける力が非常に大きくなります。また, 音楽を入れると更に効果的です。(⑦ 内蔵マイクと外部マイク, 音楽, カメラ操作中の内蔵マイク)

(7) 使える場合は極力三脚を使う=安定した画面を作る

最近のビデオカメラは小型軽量になり, 操作も楽になったのは良いのですが, 手で持ったままだと, 特にズームアップした場合はどうしても画像が揺れて見にくくなります。

斜面を登った直後に撮った映像には, 荒い呼吸のあり様がそのまま出たりします。

こうした画面のブレは三脚を使用することにより防ぐことができます。ビデオカメラ用の三脚は嵩張るので普通のカメラ用の三脚を試してみたところ十分間に合いました。三脚の脚を収納した状態で取り付けた場合でも重心が下がり安定した画像が得られました。(スライド2~4は三脚使用)

(8) 興味のある内容にするように心掛ける

これは写っている内容そのものが興味のある内容かどうかということと, 内容が単調にならないように変化をつけることにより, 飽きずに見てもらえるような画面にするよう心掛ける, という二つの意味合いがあると思います。

これは撮る側の工夫のしどころですが, ちょっとした努力で視聴者の関心を引き付けることができれば効果もそれだけ大きくなるというものです。

(9) 自然体での映像ができるようにする

現場で撮影する場合は, 事前に対象者全員の気持ちを和ませるように心掛け, 撮られることを意識せず自然体で収録することができるようにすれば, 後で見た時も気持ちの良い映像になると思います。

3 以上平成 2年度に一応の評価を得ることができた要因を分析し, 列挙してみました。しかしなんといってもビデオカメラに馴染み, 気軽に使う人が増えないことには活用の途の広がり期待できないので, この面で平成 3年度も努力する考えです。

なお, 特に強調したい点としては「現場で撮影してすぐ見せる」ということによ

り、視聴者に与える印象が極めて大きく効果があったということです。

このためには若干の設備が必要となるわけですが、ビデオを有効に活用するために小型発電機等の配置を提案させていただきたいと思います。

ビデオは職員の教育や研修、外部に対するPR等、その活用の途は大きな広がり
が期待できますが、湯沢署でし平成3年度に分収育林PR用のビデオを作ってみよ
うということで今、担当者の中で案を練っているところです。

ビデオを有効活用することにより、ひいては職場の活性化にもつながると思いま
すので、今後とも活用の途を広げるように努力してまいりたいと考えます。

(⑧ ビデオの効果、ティロップ、終了タイトル)